



クイック スタート ガイド



Cisco Phone Control and Presence 7.1 with IBM Lotus Sametime のインストールと使用

- 1** Cisco Phone Control and Presence プラグインのインストール
- 2** プラグインの設定方法
- 3** プラグインの使用方法
- 4** プラグインのアンインストール
- 5** 関連ドキュメントの入手先

1 Cisco Phone Control and Presence プラグインのインストール

プラグインが自動的にインストールされない場合は、ここに示す手順でプラグインを直接インストールします。Cisco Phone Control and Presence のプラグインは、次のいずれかにインストールできます。

- IBM Lotus Sametime Connect 7.5.1 with Cumulative Fix 1 (CF1) 以降
- IBM Lotus Notes 8.0.1 以降

始める前に

- オペレーティング システムが Windows Vista または Windows XP SP2 であることを確認します。
- 少なくとも 20 MB の空きディスク容量があることを確認します。
- アップデートが自動的にインストールされるように、IBM Lotus Sametime Connect の自動プッシュ機能をセットアップすることをお勧めします。IBM Lotus Notes には自動プッシュ機能はありません。
- プラグインをホストしているアップデート サイトの URL を管理者から入手します。

手順

ステップ 1 サインインします。

ステップ 2 Sametime Connect ウィンドウで、[ツール] > [プラグイン] > [プラグインのインストール] の順に選択します。または、
IBM Lotus Notes ウィンドウで [ファイル] > [アプリケーション] > [インストール] の順に選択します。

ステップ 3 [インストールする新しいフィーチャーを検索] を選択します。

ステップ 4 [次へ] を選択します。



注

次のステップではアップデート サイトを 1 つだけ選択することをお勧めします。

ステップ 5 管理者からプラグイン用のアップデート サイトの URL を入手した場合は、そのアップデート サイトを選択し、[ステップ 8](#)に進んでください。そうでない場合は、次のうち、該当するステップを実行して、アップデート サイトを追加します。

- Sametime Connect 8.0.x の場合は、[リモート・ロケーションの追加] を選択します。
- Sametime Connect 7.5.1 の場合は、[新規リモートサイト] を選択します。

ステップ 6 [新しい更新サイト] ウィンドウで、次のステップを実行します。

- このアップデート サイトの識別名を入力します。たとえば、「Cisco Phone Control」などです。
- URL フィールドに、プラグインをホストしているアップデート サイトの完全な URL アドレスを入力します。わからない場合は、管理者に問い合わせてください。

ステップ 7 [OK] を選択します。

ステップ 8 [インストール] ウィンドウで [終了] を選択します。

ステップ 9 [更新] ウィンドウで、Cisco Phone Control and Presence プラグインが表示されるまで、アップデート サイト ツリーを展開します。

ステップ 10 実行している Sametime Connect のバージョンをオンにします。たとえば、Sametime Connect 8.0.x を実行している場合、Cisco Phone Control and Presence with Lotus Sametime 8.0.x Feature 7.1(1).<プラグインのバージョン> をオンにします。

ステップ 11 Cisco Phone Control and Presence with Lotus Sametime Configuration 7.1(1).<プラグインのバージョン> をオンにします。

ステップ 12 [次へ] をクリックします。

ステップ 13 ライセンス契約書に同意します。

ステップ 14 [終了] をクリックして、インストールを完了します。

ステップ 15 機能の確認の警告が表示された場合は、[すべてインストール] を選択します。

ステップ 16 インストールが完了したら、[Yes] を選択して Sametime Connect を再起動します。

トラブルシューティングのヒント

Sametime Connect の複数のバージョンについてプラグインを選択すると、エラー メッセージが表示され、インストールを続行できなくなります。この問題を解決するには、ご使用の Sametime Connect のバージョンと互換性のない機能をオフにします。

2 プラグインの設定方法

設定タスクは、管理者がプラグイン インストール パッケージをどのように有効にしたかによって異なります。

- [デスクの電話制御のためのプラグイン設定 \(P. 3\)](#)
- [Cisco IP Communicator を使用してダイヤルするためのプラグイン設定 \(P. 4\)](#)
- [電話の使用状況を表示するためのプラグイン設定 \(P. 5\)](#)

デスクの電話制御のためのプラグイン設定

[デスクの電話制御] オプションを使用すると、Sametime Connect でコールの発信、コールへの応答、およびコールの管理ができます。Sametime Connect では、コールの制御用として指定した電話が使用されます。両方の電話モードを設定すると、ツールバーの [電話モードの選択] ボタンを選択して、デスクの電話と Cisco IP Communicator を切り替えることができます。これにより、電話タイプを簡単に切り替えることが可能です。

始める前に

- システムがこの機能をサポートしているかどうか、管理者に確認します。
- [デスクの電話制御] オプションと [Cisco IP Communicator を使用してダイヤル] オプションを同時に使用するようにプラグインを設定することはできません。

手順

ステップ 1 Sametime Connect にサインインします。

ステップ 2 Sametime Connect ウィンドウで [ファイル] > [プリファレンス] の順に選択します。

ステップ 3 左ペインで [Cisco] を展開します。

ステップ 4 [電話] を選択します。

ステップ 5 [電話制御] タブを選択します。

ステップ 6 [デスクの電話制御] をクリックします。

ステップ 7 [ユーザ名] および [パスワード] フィールドが空の場合は、Cisco Unified Communications Manager のユーザ名とパスワードを入力します。

ステップ 8 [サーバ] フィールドが空の場合は、ご使用の Cisco Unified Communications Manager サーバの名前または IP アドレスを入力します。わからない場合は、管理者に問い合わせてください。別のサーバの名前または IP アドレスを追加するには、カンマで区切って入力します。これにより、フェールオーバーによる冗長性が得られるので、いずれかのサーバに障害が発生した場合でも、2 番目に指定したサーバに自動的に接続できます。

管理者は通常、プラグインのインストールの準備をするときに [サーバ] フィールドを設定します。

ステップ 9 [ボイスメール パイロット番号] フィールドが空の場合は、自分のボイスメール パイロット番号を入力します。わからない場合は、管理者に問い合わせてください。

管理者は通常、プラグインのインストールの準備をするときに [ボイスメール パイロット番号] フィールドを設定します。

ステップ 10 [電話の検索] を選択します。

ステップ 11 [制御する電話の選択] リストでデバイスを強調表示します。



注 Cisco IP Communicator を使用している場合は、それをデスクの電話の代わりに選択できます。

ステップ 12 オプションで、[電話名の編集] をクリックし、そのデバイスにわかりやすい固有の表示名を付けます。

ステップ 13 [この電話を制御する] を選択します。

ステップ 14 [適用] または [OK] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

- [電話制御] タブが表示されていない場合は、管理者がこの機能を無効にしている可能性があります。
- 使用可能なデバイスのリストに、自分の電話が表示されていない場合は、次の点を確認してください。
 - ユーザ名とパスワード、および Cisco Unified Communications Manager サーバが正しいこと
 - [デスクの電話制御] が選択されていること
- [デスクの電話制御] オプションが機能するには、プラグインが Cisco Unified Communications Manager に接続されている必要があります。接続をチェックするには、[プリファレンス] で [Cisco] > [電話] > [トラブルシューティング] タブの順に選択し、[デスクの電話制御サーバ] のステータスを確認します。
- ディレクトリ サービスは、連絡先に関する正しい情報をプラグインで表示するのに役立ちます。ディレクトリ サービスが機能するには、プラグインがディレクトリ サーバに接続されている必要があります。接続をチェックするには、[プリファレンス] で [Cisco] > [電話] > [トラブルシューティング] タブの順に選択し、[LDAP サーバ] のステータスを確認します。

Cisco IP Communicator を使用してダイヤルするためのプラグイン設定

[Cisco IP Communicator を使用してダイヤル] オプションでは、Sametime Connect からコールを発信できます。ユーザがコールを発信すると、Sametime Connect は Cisco IP Communicator に番号を送信するので、ユーザはコールを管理できます。Sametime Connect からコールに応答したり、会議コールを発信したりすることはできません。両方の電話モードを設定すると、ツールバーの電話モードの切り替えボタンを選択して、デスクの電話と Cisco IP Communicator を切り替えることができます。

始める前に

- システムがこの機能をサポートしているかどうか、管理者に確認します。
- [Cisco IP Communicator を使用してダイヤル] オプションと [デスクの電話制御] オプションの両方を同時に使用するようにプラグインを設定することはできません。

手順

ステップ 1 Sametime Connect にサインインします。

ステップ 2 Sametime Connect ウィンドウで [ファイル] > [プリファレンス] の順に選択します。

ステップ 3 左ペインで [Cisco] を展開します。

ステップ 4 [電話] を選択します。

ステップ 5 [電話制御] タブを選択します。

ステップ 6 [Cisco IP Communicator を使用してダイヤル] を選択します。

ステップ 7 [適用] または [OK] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

[電話制御] タブが表示されていない場合は、管理者が、この機能を自動的に有効にするようにインストール プログラムを設定している可能性があります。

電話の使用状況を表示するためのプラグイン設定

連絡先の電話の使用状況が表示されるようにプラグインを設定できます。この機能を使用すると、電話が使用中である連絡先名の横にオフフック アイコンが表示されます。

インストール プログラムによりこの機能が自動的に有効にならない場合は、次の手順を実行します。

始める前に

システムがこの機能をサポートしているかどうか、管理者に確認します。

手順

-
- ステップ 1** Sametime Connect にサインインします。
 - ステップ 2** Sametime Connect ウィンドウで [ファイル] > [プリファレンス] の順に選択します。
 - ステップ 3** 左ペインで [Cisco] を展開します。
 - ステップ 4** [電話] を選択します。
 - ステップ 5** [電話ステータス] タブを選択します。
 - ステップ 6** [ユーザ名] および [パスワード] フィールドが空の場合は、Cisco Unified Presence のユーザ名とパスワードを入力します。
 - ステップ 7** [サーバ] フィールドが空の場合は、ご使用の Cisco Unified Presence サーバの名前または IP アドレスを入力します。わからない場合は、管理者に問い合わせてください。別のサーバの名前または IP アドレスを追加するには、カンマで区切って入力します。これにより、フェールオーバーによる冗長性が得られるので、いずれかのサーバに障害が発生した場合でも、2 番目に指定したサーバに自動的に接続できます。
管理者は通常、プラグインのインストールの準備をするときに [サーバ] フィールドを設定します。
 - ステップ 8** オプションで、[オフフックステータスのみ表示] をオフにして、オンフック ステータスも表示できます。このオプションはデフォルトではオンになっています。
 - ステップ 9** [適用] または [OK] を選択します。
-

トラブルシューティングのヒント

- [電話ステータス] タブが表示されていない場合は、システムに Cisco Unified Presence がインストールされていないか、管理者がこの機能を無効にしている可能性があります。
- 連絡先の電話の使用状況を表示するには、プラグインが Cisco Unified Presence サーバに接続されている必要があります。接続をチェックするには、[プリファレンス] で [Cisco] > [電話] > [トラブルシューティング] タブの順に選択し、Cisco Unified Presence ログイン サーバおよび Cisco Unified Presence サブスクリプション サーバのステータスを確認します。

3 プラグインの使用手法

- プラグインおよび Lotus Notes (P. 6)
- Sametime Connect からのコールへの応答 (P. 6)
- 既に処理中のコールの操作 (P. 7)
- Sametime Connect からの会議コールの発信 (P. 7)

プラグインおよび Lotus Notes

Cisco Phone Control and Presence with IBM Lotus Sametime を IBM Lotus Notes に統合すると、次のことを実現できます。

- Notes クライアントのペインに Sametime が表示されます。
- Sametime のネイティブ機能およびプラグインによって得られた機能の一部または全部に、Notes クライアントにある他のアプリケーションからアクセスできるようになります。

この機能にアクセスできるかどうかを、システム管理者に問い合わせてください。

Sametime Connect からのコールの発信

目的	手順
Sametime Connect の連絡先リストまたはチャット ウィンドウからコールする。	連絡先を右クリックし、[電話コール] > < 電話番号 > の順に選択します。または、ツールバーの電話のアイコンを選択し、< 電話番号 > を選択します。 リストに電話番号が表示されていない場合は、[電話番号の追加 / 編集] を選択し、手動で入力します。 電話ステータスが設定されていれば、現在電話を使用している連絡先には、オフフックの電話のアイコンが表示されます。
ボイスメール ペインからコールを返す。	メッセージを右クリックし、[電話コール] > < 電話番号 > の順に選択します。
任意の番号をコールする。	Sametime Connect ウィンドウの検索フィールドに番号を入力し、[ダイアル : < 電話番号 >] を選択します。。

Sametime Connect からのコールへの応答



注 [Cisco IP Communicator を使用してダイヤル] オプションを使用するようにプラグインを設定した場合は、この項は当てはまりません。

[デスクの電話制御] オプションを使用するようにプラグインを設定している場合は、着信コールがあると、呼び出し音とポップアップ ウィンドウで通知があります。ウィンドウには、発信者の識別情報（もしあれば、名刺も含む）が表示されます。

目的	手順
コールに応答する。	コールのアラート ウィンドウの下部にある [応答] を選択します。
ボイス メールに直接コールを送信する。	コールのアラート ウィンドウの下部にある [ボイスメールに送信] を選択します。
発信者と Sametime Connect チャットを開始する。	コールのアラート ウィンドウで名刺をダブルクリックします。

トラブルシューティングのヒント

ボイス メール オプションが機能するには、ボイスメールパイロット番号を正しく設定する必要があります。これは、[プリファレンス] の [Cisco] で [電話制御] タブを選択して設定します。

既に処理中のコールの操作



注 [Cisco IP Communicator を使用してダイヤル] オプションを使用するようにプラグインを設定した場合は、この項は当てはまりません。

[デスクの電話制御] オプションを使用するようにプラグインを設定した場合は、会話ウィンドウを使用して、Sametime Connect で発信または応答するコールを管理します。

目的	手順
コールを保留する。	[このコールを保留 / 再開する] アイコンを選択します。
コールを再開する。	[このコールを保留 / 再開する] アイコンを選択します。
コールを終了する。	[閉じる] アイコンを選択するか、会話ウィンドウを閉じます。
他の相手と Sametime チャットを開始する。	会話ウィンドウに名刺が表示されている場合は、それをダブルクリックします。そうでない場合は、メイン ウィンドウから通常の方法でチャット セッションを開始する必要があります。
既に処理中のコールを会議コールにマージする。	[このコールを別のコールとマージする] アイコンを選択します。処理中のコールが 2 つ以上ある場合は、どのコールを含めるかを選択するためのメニューが表示されます。このメニューでは、各コールは会話ウィンドウのタイトルによって識別されます。
会議コール中に参加者のリストを見る。	[参加者リストを表示 / 非表示にする] アイコンを選択します。
別の相手にコールを発信する。	[キーパッドを表示 / 非表示にする] アイコンを選択し、ダイヤルする番号を入力します。

トラブルシューティングのヒント

同じ相手グループに属するコールをマージすることはできません。たとえば、どちらも相手グループ A に属している 2 つの会議コール中に、これらの会議コールをマージすることはできません。

Sametime Connect からの会議コールの発信



注 [Cisco IP Communicator を使用してダイヤル] オプションを使用するようにプラグインを設定した場合は、この項は当てはまりません。

[デスクの電話制御] オプションを使用するようにプラグインを設定した場合は、ダイヤルする前に複数の連絡先を選択するか、既に処理中のコールをマージして、Sametime Connect から会議コールを発信または応答します。

ダイヤルする前に連絡先を選択すると、プラグインは、一度に1つの連絡先にそれぞれダイヤルし、別のウィンドウに一連の接続を表示します。参加者のステータスが「接続済み」である場合は、[会議に追加] を選択してその参加者を会議に参加させます。コールがボイス メールに転送される場合は、[選択した人を切断する] を選択して、引き続き次の参加者にダイヤルします。

目的	手順
Sametime Connect の連絡先リストまたはチャット ウィンドウから会議コールを開始する。	複数の連絡先を選択し、右クリックしてコンテキスト メニューを開きます。そして、[電話コール] > [会議] の順に選択します。または、連絡先を選択し、ツールバーの電話ボタンを選択します。 電話ステータスが設定されていれば、現在電話を使用している連絡先には、オフフックの電話のアイコンが表示されます。
既に処理中のコールを会議コールにマージする。	会話ウィンドウで、[このコールを別のコールとマージする] アイコンを選択し、マージするコールを選択します。
複数の参加者がいるチャットから会議コールを開始する。	参加者を選択し、チャット ツールバーの電話ボタンを選択します。

4 プラグインのアンインストール

Sametime Connect からプラグインをアンインストールすることができます。

手順

- ステップ 1** Sametime Connect ウィンドウで、[ツール] > [プラグイン] > [プラグインの管理] の順に選択します。
- ステップ 2** [アプリケーション管理] ウィンドウの左ペインで Cisco Phone Control and Presence 機能を選択します。
- ステップ 3** この機能を右クリックし、[アンインストール] を選択します。
- ステップ 4** [OK] を選択して、アンインストールを確認します。
- ステップ 5** 再起動するかどうかをたずねられたら、[Yes] を選択します。

5 関連ドキュメントの入手先

Cisco IP Communicator の使用方法については、http://cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5475/products_user_guide_list.html にある適切なユーザ ガイドを参照してください。

Sametime Connect 用の Cisco Unity プラグインの使用方法については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps9830/products_user_guide_list.html にある適切なユーザ ガイドを参照してください。



Americas Headquarters
Cisco Systems, Inc.
San Jose, CA

Asia Pacific Headquarters
Cisco Systems (USA) Pte. Ltd.
Singapore

Europe Headquarters
Cisco Systems International BV
Amsterdam, The Netherlands

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses, phone numbers, and fax numbers are listed on the Cisco Website at www.cisco.com/go/offices.